研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成24年10月9日発行　No.11

研修1「人権教育」

高知市立学校１０年経験者研修
平成24年８月24日（金）実施

「人権尊重」を学校文化に　～ミドルリーダーとしての視点～

人権教育と生徒指導

人権・こども支援課

人権教育とは人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤として，意識，態度，実践的な行動力など様々な資質や能力を育成し，発展させることを目指す総合的な教育である。

生徒指導においても，一人ひとりの子どもの自己実現を支援し，自己指導能力を育成するとともに，あわせて人権感覚の涵養が期待される。

「知識理解」＋「感性をつなぐ」
「気づき」→「築き」へ

◎ 積極的生徒指導のポイント

① 自己存在感を与える。
② 共感的人間関係を育成する。
③ 自己決定の「場」を与え，自己の可能性の開発を「援助」する。　→　*意図的・計画的に実践*

グループ演習「今どんな気持ち？」
（共感的に理解する力を育む）

★ 未然防止での取り組みの必要性

（1）いじめを許容しない風土づくり
（2）傍観者を仲裁者に
（3）社会性を育む取り組み
（4）自尊感情を高める取り組み

自尊感情が高い児童生徒ほど，いじめを止めるために行動できる。

いじめ問題に対応する教師に必要な視点

- いじめは「心的外傷」を残す。
- 教師の言動が，いじめを許容・助長することもある。
- いじめを認めたくない複雑な被害者心理を理解する。
- いじめはエスカレートすれば出口なき無法地帯と化す。

○ 事例演習

「私だったら初期対応をどうするか」（個別活動→グループ活動）
「何をどのように取り組むか」（グループ協議→発表）

【各グループの発表】

- 対応の仕方についてマニュアル化をする。
- 報告・連絡・相談をしっかりと行う。
- 事実についての報告を行い，対応の仕方について検討する場を持つ。
- 職場の雰囲気を相談や報告がしやすいものにする。
- 保護者への連絡や家庭訪問を日頃から行い，速やかに事実の報告をする。
- 情報モラルの重要性を認識･理解するために職員研修を行う。
- ネットトラブルについて生徒や保護者も含めて学習する機会を持つ。

〈受講者の感想〉

- 今日の話の中にあった「ツートンカラーからグラデーションへ」という言葉は，これからの人権教育を進めるうえでとても重要なポイントになるのではないかと思った。これまでのように何か課題を解決するために人権教育をするのではなく，すべての子どもたちの自尊感情を高め，共感的人間関係を築いていくために人権教育をしていく必要があると思った。
- ネットへの書き込みのいじめの事例からは，初期対応によってはその後大きな問題を引き起こし，被害者をさらに苦しめる結果になってしまうことを感じた。（中略）人が変わっても同じ指導をし，同じ価値観を子どもたちに伝えていくためにも，学校全体でのカリキュラムや共通認識の確立が不可欠であると感じた。
- 先生の話の中で一番心に残ったのは，教師は「良いクラス・集団」を作るのではなく，「個人の育成」を通して，子どもたち自身が主体的に集団が築けるような教育をしていくことを役割とするということだ。この１年の関わりとしてではなく，この先ずっと様々な集団の中でもよりよく生きようとする子どもの育成を目指したいと思った。

研修2　パネルディスカッション及び研究協議

家庭・地域との連携　－今，子どもたちにできること－

◎　ねらい

パネルディスカッションを通して，学校現場のミドルリーダーとなる先生方が「地域・家庭・学校」の連携・協力のために　①どういうことが期待されているか　②どういう力（能力・資質）が必要かを知り，実際の行動につなげる。

◎　パネラーのみなさん

高知市少年補導センター
所長　　大谷 明彦 さん

高知市青少年育成協議会
会長　　島﨑 伸一 さん

高知市教育委員会教育環境支援課
指導主事　中川 由美 さん

高知市小中学校ＰＴＡ連合会
副会長　　小野　知 さん

1　パネルディスカッション
①　子どもたちの抱える現状と問題について
②　フロアを交えたディスカッション
③　パネラーから『学校そして先生方に期待すること』
2　グループ研究討議
「パネルディスカッションから学んだこと」
「学校で生かせること，生かしたいこと」

大谷　明彦 さん

補導件数は年々増えている。いじめも含めた授業中の危機管理も大切である。対処よりも予防をする。小学生は手を離しても目を離さない。中学生は心を離さない。地域とは距離を離さない。日頃から地域に入って顔見知りになると声もかけやすい。地域でできることを難しく考えずに，まずは自分の名前を覚えてもらうことから始めてほしい。

地域によって地域の行事に先生の参加が少ないところがある。青少協のことを知らない先生も多い。地域がもっと学校にPRする必要もある。自分も関わって40年になるが，ずっとやると若い人が育たない。PTAのメンバーは変わる。いかにバトンタッチするか。うまくいけば地域の活性化につながる。今の親は自分の楽しみを優先して，困ったときだけ学校や地域に飛びつく傾向がある。保護者をどのように地域に引き込むか。
何よりも学校と地域が地域の子どもを好きになることが大事！

島崎　伸一 さん

グループ研究協議で
まとめた内容

中川　由美 さん

今の子は情報に敏感だが，体験は少ない。作物を育てたり，調理をしたりなど，自分の五感を使って判断し，情報と経験と知識をつないでいってほしい。地域や家庭の力を生かし，体験を通して地域で学ぶ良さを知ってほしい。

ＰＴＡとしては，どのように保護者同士がつながるかも課題の一つ。個人的な要望を学校に言ったり，先生を介さないとコミュニケーションがとれない保護者もいる。担任だけでなく管理職の先生や他の先生の力を借りていくことも必要になっている。
（世の中全体が）「価値観の多様化」という言葉に逃げ込んでしまっていると感じる。個人の自由が尊重されているが，本来，自由は責任を伴うものであると考える。
先生方には芯となるものを持ったうえで，保護者や地域と腹を割って話ができる人になって欲しい。

小野　知 さん

〈受講者の感想〉

- パネラーの方々の話を聞き，学校や教師に対する期待とあたたかく見守ってくださる姿勢を感じた。地域とのつながりを大切に思い，地域力を向上させる，そんな子どもたちを育てたい。
- 地域とのつながり方として，特別な行事に出ていくといったものだけでなく，日頃から顔の見える交流を心がけていきたいと思った。
- 子どもたちを取り巻く環境が次々と変化していく中で，地域（学校を含む）だけはいつも，子どもたちを中心に，人と人とのつながりをもって存在しておくべきだと感じた。
- 人と人とをつなぐジョイントの役割をこれからは果たしていこうと思う。（中略）保護者の立場としてはとにかく積極的に学校や地域の行事に参加し，地域の子どもたちを知り，また自分の子どもも知ってもらう。教師としては，親同士，地域と子どもをつなげる要として，いつでもフットワークを軽く，動ける教員を目指す。

ご意見・ご感想等を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。